

東北教区報 2025年11月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
小さな群れよ恐れるな

司祭 ヤコブ 林 国秀



私がチャプレンを務めるある幼稚園では、卒園式の時に卒園児一人ひとりが自分の好きな聖書のみ言葉を、みんなの前で発表するということが行われています。昨年の卒園式では「わたしは良い羊飼いである」「キリストに結ばれて歩みなさい」「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」「キリストはわたしたちの平和であります。」など一人ひとりが大きく透き通った声で発表し、聴く者の心に染み渡ります。当初、子どもには難しい言葉を無理に暗記させているのではとしたりもしたのですが、そうではなく、子どもたちが純粹に神様からの言葉であると受け止めていることが、発表する姿勢から伝わります。まさにそれは天からの声として、大人たちの疲れた、憂いに満ちた心に届き、清められます。

ところで今、教会では主日の礼拝出席者が数名という小さな教会が多くなって、献金の減少で今後大丈夫なのかとか信徒の高齢化というような将来を憂う声をよく耳にします。確かに教会の将来は、現実を見つめると心配なことばかりです。これは聖公会に限ったことではないようです。私どもの教会の礼拝に時々近隣の他教派の教会の信徒の方がいらつしゃいますが、小さな教会ゆえ定住牧師がおらず、主日礼拝は月に1、2度なので、礼拝がないときに聖公会

にいらつしゃるといいます。でもその小さな教会は、くじけることなく何としても牧師先生を自分たちの教会に招きたいと願い、神様の力を信じて祈り続け、いよいよ決心し、牧師館を建築する計画を立てられたというのです。そしてその原動力となっているのが「小さな群れよ、恐れるな」というみ言葉だという話をされ、感銘深くその話をお聞きしました。主イエスの福音は「神の国は小さい者、貧しい者にこそ来る」ことが真髄です。

主イエスは、あるとき子どもを真ん中に立たせ、「子どもになる人が天国で一番偉いのだ」と教えました。つまり、私たちは強いことが、大きいこと、数が多いことが、価値あることと考えますが、主は小さい者こそ最も偉いと教えます。主イエスの弟子たちは小さい群ででしたし、そのことを恐れていました。しかし、主は「小さい群よ、恐れるな」と教え、さらに「恐れるな。私は共にいる」と励まし、どんな苦しい状況にあるうと「神は共におられる。恐れるな」と繰り返し語りかけられました。主が「小さい群よ」と呼びかけられているのは、もちろん神は一人ひとりと共におられますが、同時に二人、三人という小さい群にも共におられ、すなわち「二人、または、三人が私の名によって祈る所、集まる所に私もその中にいる」と励まされます。

初代教会は、厳しい迫害の中にある小さな群れで、迫害に耐えられず、誘惑に負け背教した人たちもいました。そのような厳しい状況にあつて、この主の言葉は、どれほど大きな励ましと希望の言葉になったことでしょう。そして現代の私たちの教会も小さな群れです。しかし、ここにこそ主が共におられ、ここに神の御心があらわれ、神の国、天国を先取りしています。今、聖公会のある小さな教会も新たな礼拝堂を与えられることを望み、「小さい群よ、恐れるな」の声を聴き、そのみ言葉に励まされ、希望を抱き歩みを進めています。どうか応援とお祈りをお願いいたします。(郡山聖ペテロ聖パウロ教会牧師)

ハラスメント研修会

～あなたの心の中を覗いてみませんか？パート2～

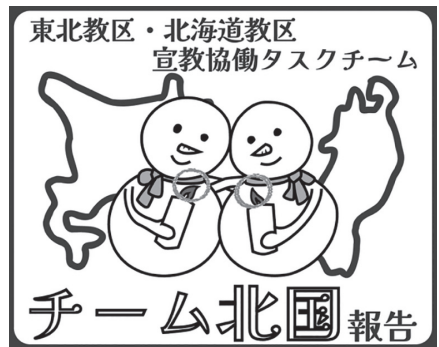
8月30日に前回と同一テーマ「あなたの心の中を覗いてみませんか？」でハラスメント研修会を開催しました。18名の参加でした。大村哲夫上智大学特任教授の講話は『私の「いたみ」、人の「いたみ」に心を向ける』の表題で、かなしみ、喪失と悲嘆、グリーフワークとグリーフケア、傾聴、同情か共感か、共苦共生、セルフケア、…と多岐にわたる内容で自己の心を整える上で示唆に満ちた内容でした。講話後のグループ討議では、皆さん活発に意見交換をしていました。講話中の「傾聴」体験が強く心に残ったようです。

(ハラスメント防止・対策委員会 委員長 サムエル 一戸 舒也)

前回の研修会では、ハラスメント被害者の心理にフォーカスした内容だったのに対し、今回は被害者の心理に重きを置きつつも、被害者の心理を詳細に分析・解説するのに留まるような内容ではなく、ハラスメントが発生したその先を見据えた、誰もが今すぐに実行すべきことⅡ心の「セルフケア」の必要性にまで及びました。しかもそれは「いたみ」を抱えた時に備えるためであるのは勿論のこと、いたみを抱える人を「支える」時に備えるためにも必要不可欠であるということは、とても重要な学びでした。またセルフケアは、虫歯予防はできて虫歯を治せない歯磨きと同じ「予防策」なので、平常時から意識的に習慣化することが大事なのだという説明にも大いに納得させられました。

大村先生のお話は、優しいお声がとても耳に心地良く、学ぶことが多いのに非常にわかり易いです。更に、絶妙な笑いが織り混ぜられていて、飽きることなく楽しめます。ですから、次回は更に多くの方に参加して欲しいです！

(ハラスメント防止・対策委員 クリスティナ 多田 愛)



東北教区

アイリーン 坂水 かよ

夏の暑さも去り、季節は巡って実りの秋を迎えました。北海道は5月岩見沢聖十字架教会、東北は6月盛岡聖公会から始まった「まなびの会」の行脚もほぼ予定通りに終了しました。訪問した教会で皆さんと直接会って語り合う喜び、温かく豊かな時間を共有できたことが大きな実りでした。

さて、毎月開催されるチーム北国コアミーティングでは、11月に開催される教区会に向けての準備の最終段階に入りました。教区会では、この1年間で大事に歩んできた活動内容の報告と、その中で見え

てきた課題等を共有するため研修の時間をいただいています。また、議案として「東北教区・北海道教区宣教協働・新教区設立に向けてのミッション・ステートメント2025」が両教区で提案されます。

雪だるま「ともにん・あゆむん」の命名に続き、新教区名、主教座聖堂、教区事務所機能、主教館への意見等の募集も締め切りましたが、こちらに対しても皆様からたくさんのお思いや意見が寄せられています。

新教区設立に向かって、組織細則のすり合わせ、諸規程を照らし合わせる作業、経理関係の統一等々、コツコツ積み上げ作業が続きます。教会巡礼、スタンプラリー等々の楽しい企画も検討中です。両教区報で掲載した東北・北海道「教会紹介」が一巡しましたので、今月から新シリーズ「幼保園紹介」が始まります。どうぞお楽しみに。

「チーム北国ホームページ」
<https://sites.google.com/view/nsk-teamkiaguni/>



釧路領栄保育園



「霧の街釧路」ロンドンと同じ霧の街である。この地の教育保育は聖公会が担ってきた。英和女学校、アイヌ学校、幼稚園、保育所と現在に至る。いつてみよう、やってみようを合言葉に様々なことに挑戦している。ハウスを使つての野菜栽培、ジャガイモ、サツマイモの栽培。それを調理して食べる。また、近くの公園への散歩はもちろん、公共交通を利用してのお出かけもしている。20数名の保育士と共に子どもたちに寄り添っている。

シリーズ
わたしの道の光「あなたの若い日に
あなたの造り主を覚えよ」

仙台基督教会

マルタ 目黒 かおり



私は仙台生まれの仙台育ち。教会の記憶は遠く小学校低学年まで遡ります。もっともそこでの記憶は重厚な雰囲気、教会の建物、7人兄弟の友達が聖歌隊で歌っていた姿、教会帰りに犬に追いかけられたことぐらいに留まるのですが。当時の我が家は市の中心部にあり、教会はいくつも家のそばにあったため、中学年になると別の教会に通うようになり、中学校卒業までを過ごしました。我が家はクリスチャンホームではなかったし、当時はまだ土曜日は学校が休みではなかったのですが、その教会の日曜学校には大学生の

先生がいて、たくさんのお話を教えてくれた。教会に通うのが只々楽しかった！お年玉や誕生日を貯金し、キャンプ費用に充て、夏と冬には岩手の錦秋湖にバイブルキャンプに出掛けました。後に東日本大震災で大変なことになる福島の大熊町や双葉町などの同年代の友達と、冬は雪山をタイヤチューブで滑り、夏は川を泳ぎ、夜はろうそくの灯りの下、み言葉を読みました。朝ご飯のパンケーキの美味しさ、雪山の白さ、ろうそくの煌めき、川の冷たさ、ギターにのせた讃美歌の音色を何十年たった今も覚えています。まさに五感を通して「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」を感じ、主に導かれた瞬間だったのだと思います。この時の友達の多くは、加藤博道主教様が礼拝でお話しされていた全身を水に浸す洗礼を受けていますが、私にはその勇氣はまだありませんでした。

ために渡米を決断しながら、熱心にお説教をしてくださる牧師さん、誰よりも早く出社してトイレの掃除をしているけれども、人間関係に悩んでいる信者さん、まさに神様が求めている姿はこういうものなのだろうという方々と出会いました。み言葉を聞くことが楽しかった日々は、何の取柄もない私はこの場にふさわしい人間なのだろうか、こんなに頑張っている方々の祈りの声は本当に届いているのかと生意気にも迷う日々が変わってしまい、次第に教会から足が遠のきました。

その数年後、今は閉所となった西の平聖パウロミッシェンに導かれ、洗礼・堅信を受け、現在に至ります。我が家の2人の子供もたちは、教会の皆様と聖ルカ幼稚園での生活から多くのことを学び、大きくしていただきました。私は年齢だけは重ねましたが、まだまだ弱く怠け者で、発展途上です。それでも幼い頃から変わらず導いてくれる大きな存在は、常に私に声を掛け続け、導いてくださっていることに只々感謝する日々です。

主教コラム



長い長い猛暑、酷暑の今夏でした。暑すぎるという理由で、例年は8月に開いている仙台聖フランシス教

何せ幼稚園児さんから中学1年生までと幅広いので、視覚に訴えたのです。

1枚は、主イエスとメナスさんが並んで描かれている「友情のアイコン」です。どちらがイエス様でしょうか？とクイズにし、正解は背後の円光で内側に十字が描かれているほうですと解説しますと、なるほどと納得の様子。イエス様の右手がメナスさんの肩に回されていると説明しますと、二人はお友達なんだとみんなにっこりでした。

2枚目は、ロバート ツンドの『エマオへの道』（1877年頃作品）です。この絵画が、聖クリストファ幼稚園の廊下の一角に飾られていたのを知らなかった私はビックリして利用したのです。しかもこの額縁は青葉静修館にあったもので、深い神様の導きに感動しながらルカ24章13〜35節で、ご復活のイエス様が二人のお弟子さんと同行しているように、私たちとともに歩んでおられるのを想像して、子ども賛美歌「エマオの道を 旅ゆくふたり」を皆で歌いました。

(教区主教)



仙台聖フランシス教会

去る8月31日、仙台基督教

会との合同礼拝が行われ、当教会から信徒他11名、幼稚園から教諭5名が礼拝に出席しました。いつもの静かな当教会の礼拝とは異なり、100名余りの方々との主日聖餐式は荘厳な礼拝となりました。昼食後、全員ではなかったですが、チーム北国のまなびの会「知っておきたい1・2・3」にも出席しました。

チーム北国キャプテンの赤坂有司さんから北海道教区との合併に向けての話を聞き、いろいろな苦勞を乗り越え、昼夜大変な努力をされている内容を理解することが出来ました。また、「ともにん」「あゆむん」の本物を見ることが出来ました。「チーム北国」が結成されたのが2022年で、早三年。これからの様々な問題があると思いますが、マスコットを目の前にして、気持

ちが新たにになりました。赤坂キャプテンとメンバーが問題解決のため、大変な努力をされていることが分かる会でした。ゴールはまだ先ですが、皆で力を合わせ、新教区設立に向けて強く歩んでゆきたいと思っています。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

「広畑お茶会」は東日本大震災での津波被災者の皆さんを中心に、月一度の頻度で開催されていた集まりでした。皆さんの生活が落ち着く様子を感ぜながら、今は年一回、11月に開催することになっています。ですから今年は題して「広畑お茶会2025」です。新地町は実りの時期、猛暑だった今年の夏は去りました。皆さんの懐かしい顔が思い起こされます。是非とも今年もお元気で参加していただけるよう祈ります。

(リーダー 浅原 和裕)

常置委員会報告

(第11回・9月9日)

報告事項▼主教報告…9月4日(木)～5日(金)に開催され

た北海道教区婦人会大会に参加し、開会聖餐式で説教、「北海道教区婦人会のこれからについて思い巡らす」のテーマで講演した。

協議事項▼若松諸聖徒教会建築に関してオンラインにて協議し、教会建築実現に向けて必要な議案作成や修正をした。▼福島聖ステパノ教会より宣教強化資金運用グループに礼拝堂床修繕のための420万円の融資申請があり、常置委員会においてもこれを承認した。▼第110(定期)教区会に上程予定の議案について確認を行った。

あけぼの10月号1面巻頭言タイトルに誤りがありました。訂正し、お詫びいたします。誤「私を」を受け入れてくださる主イエスの愛」正「私」を受け入れてくださる主イエスの愛」

永遠の平安

ロイス 柳田 えい

グレース 大久保 テル子

(7月9日・仙台)

モニカ 須藤 敬子

(7月31日・八戸)

リベカ 山根 カネ

(9月5日・盛岡)

リベカ 谷津 功子

(9月5日・仙台)

マリア 横式 和子

(9月30日・仙台)

11月30日(日)は「人権活動を支える主日」です。人権を守る様々な活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

お知らせ

広報グループでは北海道教区との教区再編に向けて、互いの教区報での教会紹介や、共通記事の掲載等に取り組んでいます。次号の12月号巻頭言は、北海道教区報「北海之光」には東北教区主教 長谷川清純主教が北海道の皆様に向けて、「あけぼの」には東北の皆様に向けて北海道教区主教 笹森田鶴主教が「クリスマス・メッセージ」を寄せられます。2026年2月号からは巻頭言を共通化し、両教区教役者が交互に担当いたします。楽しみにお待ちください。

11月逝去者記念聖餐式

11月5日(水)午前10時30分、

於 主教座聖堂

司式 長谷川清純 主教

説教 加藤 博道 主教

主教 ライト前川 眞二郎

1953年11月1日逝去

宣教師 Miss Bessie McKim

1973年11月5日逝去

司祭 西村 敬太郎

1971年11月7日逝去

司祭 マルコ植松 金蔵

1975年11月7日逝去

伝道師 松下 一郎

1918年11月10日逝去

司祭 大野 要蔵

1938年11月11日逝去

司祭 ヨハネ伴 君保

1956年11月11日逝去

司祭 ガブリエル稲沢 忠信

1988年11月12日逝去

司祭 今井 献

2007年11月27日逝去

伝道師 白石 村治

1929年11月28日逝去

女執事 Miss Anna Love Ranson

1969年11月28日逝去

2025 耳を傾けようキャンペーン

神のみ声に、人々の声に、

そして世界の声に耳を傾けよう

〜となりびととなるために〜